

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200552		
法人名	株式会社AIコーポレーション		
事業所名	グループホーム愛の家(さくら)		
所在地	岡山県倉敷市児島下の町7丁目1番39号		
自己評価作成日	平成24年1月26日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・大きな道路から少し中に入った静かな環境。散歩がてらいけるスーパーもあり協力医も車で1～2分程度のところにある、周辺環境に恵まれている。また、敷地も広く、畑づくり等も楽しめる ・「常に笑顔で みんなに優しく」を理念に掲げ取り組んでいる ・食事作りを重視し地域から新鮮で旬な食材を届けてもらっている ・何事にも自由で柔軟に取り組んでいる
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200552&SCD=320&PCD=33
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、地元の老舗繊維会社の社長が、地元貢献したいという思いから設立された。同じような思いで設立された複数の介護事業所とグループを形成しており、車輛の貸し借りや、利用者の受け入れなどで協力体制を築いている。</p> <p>「常に笑顔で みんなに優しく」という理念のもと、職員は利用者の話に耳を傾け、否定することなく、笑顔で見守り、支援をしている。利用者の思いをくみ取り、実現することを大事としているので、ささやかな改善や要望も、職員間で話し合い、日常のケアに活かされている。利用者は思い思いの時間を過ごしており、自宅の居間でくつろいでいるかのような、ゆったりとした雰囲気である。医療面でも協力医との連携がよく取れており、安心して暮らせる体制を構築している。新しい事業所であるが、何にでも柔軟に取り組もうとする前向きな姿勢がうかがわれる。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年2月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は覚えやすく、簡略化・浸透しやすいものを作っている。事務所内に掲示し共有を図っている	職員の意見を取り入れ、「常に笑顔で みんなに優しく」という、誰もがわかりやすい言葉にしている。職員への浸透も高く、目指す介護の方向性を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な主だった交流は少ないが、地域での大きなお祭り等を通じての交流を図っている	隣接した民家無く、日常の近所付き合いがしにくい状況にある。しかし、代表が地元出身で、町内会長の理解もあって、祭りの巡回ルートに繰り込まれたりしている。事業所も地区の集まりに差し入れを提供するなど、地域の輪に加わる努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、特に活動していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動状況や入居者の状態などの報告や今後の課題や改善点についてご意見を頂いたり地域の方々との意見交換に努めている	平日の開催で、参加者は自治会・老人会長、民生委員、市・地域包括支援センターに事業所職員とバランスの良い構成である。運営に関する細かな指導や、地域交流を深めるためのアドバイスなど、意見交換をする場として、運用されている。家族へ参加を、依頼しているが、実現に至っていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や保健福祉センター等の関係機関の担当者の方とは些細なことも連絡し、なんでも話し合える関係作りをしている	管理者の積極的な働き掛けにより、市の担当とは、きちんと情報交換ができており、相談できる関係を構築している。一方、地域包括支援センターとは、運営推進会議でのやり取り程度にとどまっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の玄関の施錠はしていない。ユニットの電子ロックは使用しているが、事務所を通じて事業所内は自由に移動できるようにしている。その他の身体拘束は、基準に準じてマニュアルを作成し対応している	以前、事業所から姿が見えなくなった利用者がいたため、安全を配慮した上で、トイレの窓やユニット入り口の施錠をしている。身体拘束についてのマニュアルを準備し、内部でも研修をしたことで、職員が日常の中で身体拘束があったか、振り返る良い機会になっており、気付きがなされている。	内部研修での「気付き」が今後のケアにどう活かされていくか、事業所のフォローアップに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成して周知に努めている		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学習する機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は、時間をかけて行き相違なく理解していただけるようにように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等を投書できるようにしている。	意見箱を設置しているが、投書の実績はない。家族からの身体機能に対しての要望があれば、介護計画に盛り込んでいる。また、おやつを持ち込みの要望などは差し障りのない範囲で認めるなど、できる限り叶える努力をしている。	家族が、気兼ねなく要望や意見を、職員に伝えるには、それだけの信頼関係を持つ必要がうかがえる。意見箱だけに頼らず、意見、要望を広く収集している姿勢をアピールし、家族との接点を増やす努力を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の開催やアンケート調査を実施し意見や要望を聞く機会を設けている。また、管理者への意見や要望等を言いやすい職場環境を作るように心がけている。	ユニットごとで業務の方法が違うため、ユニット会議を開いている。職員は、仕事で要望意見がある場合は、リーダーに相談し、妥当と認められれば、随時業務に反映し、改善を図っている。職員の買い出しの負担軽減として、地域の業者へ食材を発注するように切り替えた事例などが挙げられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と随時、コミュニケーションを図っている。また、出来るだけ仕事が私生活への負担にならないように勤務を組んだり、有給休暇を取得しやすい環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や希望等により外部研修に参加してもらっている。今後は、定期的な内部研修も検討していく。また、わからないことや疑問点はすぐに管理者や周りの職員に相談して解決できるような環境整備に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームからの研修の受け入れや情報交換を行っている。また、市が行う分科会にも参加している		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートなどの各種情報を確認したうえで、ゆっくりと話を傾聴し、安心できる空間づくりを行い、ご本人の生活ベースに沿ったコミュニケーションに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの間に、自宅訪問・利用中の事業所からの聞き取りや訪問・ケアマネや医療機関からの情報収集など、可能な範囲での情報収集に努めている。また、契約時にご家族から再度細かく情報収集するなどしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の話に傾聴し必要な支援内容の見極めを行っている。また、必要に応じて他のサービスなどの提案等も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割の獲得に努め、ケアプランにおいても洗濯物など習慣づけてできるようなお手伝いの内容を位置づけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや必要時の電話にてやり取りを行い意思疎通に努めている。また、ご家族にもできる範囲での対応をお願いして、協力体制の構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた病院や美容院などはご家族の協力を経て継続できるように支援している。市内でも遠方からの入居者への支援は難しい	近所の知り合いの来訪時は、利用者の自宅周辺の近況を職員が話題にしたり、家族の協力で墓参りに出かけたりと、入居以前と変わらない馴染みの継続をできる限り支援している。事業所から遠方へ出かける時は、家族へ協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中のフロアでの談笑など多く見られる。トラブルになりそうなどときには職員が間に入り対応している。居室で過ごすことが多い入居者に対しては随時声掛けをしている。ゲームや体操なども行い、みんなで共有する時間を大切にしている		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も様子を尋ねたり、職員が合いに行ったりすることもある。年始のあいさつも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、考えや変化などに気配りをしてどう思い、どう感じているのかを探っている。必要に応じて個別に話を聞き対応している	職員は、利用者の生活歴をよく理解した上で、様子を見守り、介助している。個々の行動パターンを認識し、要望を否定することなく、本人が納得するまで話を聞き、付き添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からの情報を随時収集し生活歴や入居に至る経緯などの把握に努めている。把握が不十分な方に対しては、継続して情報収集を行っていきたい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズム・ペースを大切にしながら、いかに残存機能を生かした生活が継続できるか現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時にカンファレンスを開催している。出席できなかった職員からも意見を聞き、ケアプランの立案をしている	定期的にかンファレンスを開いている。勤務時間の関係で参加できなかった職員にも、利用者に対しての些細な変化や注意点などの意見を聞き、介護計画の作成時に活かしている。入院していた利用者が事業所に戻って、精神的に穏やかになり、歩行も良くなった事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日常の様子だけでなく、受診やリハビリなどの内容も記載に努めている。また、全体・ユニットと2種類の連絡ノートを用意し情報の共有化に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人・事業所の状況に応じて可能な限り柔軟な対応に努めている。また、ご家族とも話し合い可能な限り柔軟な対応に努めている		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市介護保険課・地域包括・町内会・民生委員・老人会などの方々に参加していただき、地域情報の収集や交換に努めている。また、近隣のご家族からの収集・交換にも努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医とかかりつけ医とのスムーズな情報交換が行えるように努めている。また、必要に応じてかかりつけ医との連携も家族と協力して行っている。	事業所と内科・歯科の協力医との連携がきちんとなされている。かかりつけ医での受診なども、近場であれば事業所が送迎している。必要に応じ、医療機関への入退院時の送迎も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所での看護職の配置はないが、協力医との日常的な連携に努めている。平成24年2月以降は訪問看護ステーションとの連携により医療連携加算の体制を整える予定である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や担当者・ご家族との連携を密にし、施設での受け入れ状況等を説明できるだけ早い段階での退院に向けたアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行っている。必要に応じて本人やご家族の要望を確認し様々な相談にいつでも答えられるようにしている。他の事業所や医療機関とも普段から連携をして終末期に備えていけるように努めている	看取りはまだない。重度化・看取りへの対応については、協力医や主治医の判断のもと、家族と相談し必要であれば、法人グループ施設の案内もできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。職員の研修については今後の努力課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や定期点検を行っている。避難訓練の際には合わせて、通報・消火等の訓練も行っている。今後は地震や津波を想定した訓練も実施していきたい	避難訓練や通報・消火訓練は実施している。運営推進会議では、市から地震や津波のリスクについての説明もあり、今後は避難経路や避難方法について見直しを考えている。台風12号の際は、敷地を車の避難駐車場として開放している。	訓練の欠席者や中途採用職員に対し、訓練内容や非常通報機器の操作法の徹底を期待したい。

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中でトイレの扉の開け閉めなど様々な場面でのプライバシーの確保に心がけている。	風呂上がりは頭髪が完全に乾いてから浴室を出てもらうなど、中途半端な状態で共用空間に出ることがないように配慮している。職員は、利用者の反応に応じて方言や愛称を用いて言葉かけをし、利用者が何をしたいのか思いをくみ取るよう、寄り添う支援を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に考えや思い・感情を伝えられるように一人ひとりのペースに沿って接している。外食等は意見や希望をできるだけ聞き入れられるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットごとでの基本的な一日の流れはあるが、毎日の生活が自分のペースで行えるように援助している。買い物・受診・お手伝い等の希望されることが、職員と一緒に楽しめるように個別対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧などを自分でされている方もおられる。衣服も自分で選んでいただいている。散髪も月一回事業所に来ていただいて実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や内容などできる範囲内で好みに合ったものを提供している。調理等も可能な方に手伝ってもらっている。食材は新鮮な物・旬の物を地域の業者さんから仕入れている	献立は、利用者の状態や希望に合わせて、その日に決めている。チラシなどを見た利用者の要望に応じ、急ぎよ出前や持ち帰り寿司などに変更することもある。普段食欲のない利用者も、外食や鍋の日は大変喜んでる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は細かくチェックし毎日記録している。メニューは食事担当の職員がその都度考えて、バランスの良い食事作りに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがい・歯磨きを実施している。義歯がない方に対しても、誤嚥性肺炎予防の為、うがいを行っている。義歯は毎晩取り外して清潔を保つとともに週2回のポリドントを行っている		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて、一人ひとりの排泄のパターンや状況を確認している。必要に応じて声かけ・誘導をしている。状況に応じて、パットや紙パンツ等を使用しているが、適時検討し変更等を行っている	排泄パターンはチェック表で管理し、必要であれば、さりげなく職員からトイレ誘導をして自立での排泄を支援している。就寝中は、起こしてまではトイレ誘導をしないが、介助の必要な利用者には、起き上がったことが分かるように、センサーマットをベッド下に敷き、素早い排泄の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトやバナナなどを取り入れたり、水分量や運動量を増やしたりしている。また、必要に応じて下剤等も使用し、便秘の解消に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェック後に本人の意思を確認し入浴している。仲の良い方同士で入浴をすることもあ。便失禁等があれば必要に応じてシャワー浴を行っている。シャワーチェア等の福祉用具を活用して安全な入浴環境の整備に努めている	日に3～4名の入浴を実施している。入浴日や時間は、事業所が決めているが、利用者の希望を大事にし、なるべく本人のペースで入浴している。夏場はシャワーのみの対応などを含め、回数を増やしたい要望に応えるよう考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて午睡を取り入れたりしている。居室やたたみで随時休んでいただける環境整備も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は個人別に分けた袋の中から夜勤者が翌日分を用意し、特定の出勤帯の職員が配布するようにしている。誤薬を防止するため、名前・日付・内服の確認を行っている。処方の変更は協力医と随時連携を取り行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみなどの役割(お手伝い)をケアプランに位置付けて、一緒に取り組めるように努めている。また、趣味や楽しみごとを見出しできる限り実践できるよう援助に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気に応じてテラスでの日光浴や散歩など日常的に取り組んでいる。外出等も計画し四季の変化を感じられるように努めている。ご家族にも声かけし外出を促している	普段から近所の散歩や畑作業、食材の買い出しに付き添ってもらうなどして、利用者の外出機会を作っている。遠方への外出にも積極的に取り組んでおり、グループ施設の大型車を借り、深山公園や鷺羽山へ出かけている。	

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、安心や満足の為に手元に少額を持たれている方もいる。その中から買い物などに使用している。また、立替金での買い物ができる様に契約時に家族に説明し同意を得ている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は希望に応じて本人に渡し、ゆっくりと会話を楽しませている。希望があれば、ご家族の了解を得て事業所から電話をすることもあ。今後、年賀状等が出せるように支援していきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画作りを行い、フロアの壁面に飾ってある。	玄関には、華道の先生だった利用者が活けた花が飾られていた。リビングには自然光が入り、明るく、床暖房も完備され、程よい室温で過ごすことができる。インフルエンザ対策もかねて、空気清浄機や加湿器を設置し、換気の際は窓を開け、シーリングファンも回している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前にソファを設置している。テーブルの配置は随時変更して変化を出せるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電化製品も含めて持ち込み制限を特にしていない。なじみの物や好みの物を持ち込んでいただけるようにしている。プライバシーの為に入り口に暖簾等を設置している居室もある。ベッドの配置は随時見直している	夜間に大声を出す利用者の隣室には耳の遠い人を配したり、ベッドを反対側に置くなどの工夫をしている。紙オムツなどのストックで部屋が乱雑にならないよう、布製の引き出し付き3段ボックスを事業所が用意し、中身が見えないように収納している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室はわかりやすいように大きな表示をしてある。居室の位置は本人やご家族の希望・ADL等に沿って決めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200552		
法人名	株式会社AIコーポレーション		
事業所名	グループホーム愛の家(ひまわり)		
所在地	岡山県倉敷市児島下の町7丁目1番39号		
自己評価作成日	平成24年1月26日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200552&SCD=320&PCD=33
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年2月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は覚えやすく、簡略化・浸透しやすいものを作っている。事務所内に掲示し共有を図っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な主だった交流は少ないが、地域での大きなお祭り等を通じての交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、特に活動していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動状況や入居者の状態などの報告や今後の課題や改善点についてご意見を頂いたり地域の方々との意見交換に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や保健福祉センター等の関係機関の担当者の方とは些細なことも連絡し、なんでも話し合える関係作りをしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の玄関の施錠はしていない。ユニットの電子ロックは使用しているが、事務所を通じて事業所内は自由に移動できるようにしている。その他の身体拘束は、基準に準じてマニュアルを作成し対応している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成して周知に努めている		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学習する機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は、時間をかけて行い相違なく理解していただけるようように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等を投書できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の開催やアンケート調査を実施し意見や要望を聞く機会を設けている。また、管理者への意見や要望等を言いやすい職場環境を作るように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と随時、コミュニケーションを図っている。また、出来るだけ仕事が私生活への負担にならないように勤務を組んだり、有給休暇を取得しやすい環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や希望等により外部研修に参加してもらっている。今後は、定期的な内部研修も検討していく。また、わからないことや疑問点はすぐに管理者や周りの職員に相談して解決できるような環境整備に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームからの研修の受け入れや情報交換を行っている。また、市が行う分科会にも参加している		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートなどの各種情報を確認したうえで、ゆっくりと話を傾聴し、安心できる空間づくりを行い、ご本人の生活ペースに沿ったコミュニケーションに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの間に、自宅訪問・利用中の事業所からの聞き取りや訪問・ケアマネや医療機関からの情報収集など、可能な範囲での情報収集に努めている。また、契約時にご家族から再度細かく情報収集するなどしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の話に傾聴し必要な支援内容の見極めを行っている。また、必要に応じて他のサービスなどの提案等も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割の獲得に努め、ケアプランにおいても洗濯物など習慣づけてできるようなお手伝いの内容を位置づけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや必要時の電話にてやり取りを行い意思疎通に努めている。また、ご家族にもできる範囲での対応をお願いして、協力体制の構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた病院や美容院などはご家族の協力を経て継続できるように支援している。市内でも遠方からの入居者への支援は難しい		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中のフロアでの談笑など多く見られる。トラブルになりそうなどときには職員が間に入り対応している。居室で過ごすことが多い入居者に対しては随時声掛けをしている。ゲームや体操なども行い、みんなで共有する時間を大切にしている		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も様子を尋ねたり、職員が合いに行ったりすることもある。年始のあいさつも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、考えや変化などに気配りをしてどう思い、どう感じているのかを探っている。必要に応じて個別に話を聞き対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からの情報を随時収集し生活歴や入居に至る経緯などの把握に努めている。把握が不十分な方に対しては、継続して情報収集を行っていききたい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズム・ペースを大切にしながら、いかに残存機能を生かした生活が継続できるか現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時にカンファレンスを開催している。出席できなかった職員からも意見を聞き、ケアプランの立案をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日常の様子だけでなく、受診やリハビリなどの内容も記載に努めている。また、全体・ユニットと2種類の連絡ノートを用意し情報の共有化に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人・事業所の状況に応じて可能な限り柔軟な対応に努めている。また、ご家族とも話し合い可能な限り柔軟な対応に努めている		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市介護保険課・地域包括・町内会・民生委員・老人会などの方々に参加していただき、地域情報の収集や交換に努めている。また、近隣のご家族からの収集・交換にも努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医とかかりつけ医とのスムーズな情報交換が行えるように努めている。また、必要に応じてかかりつけ医との連携も家族と協力して行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所での看護職の配置はないが、協力医との日常的な連携に努めている。平成24年2月以降は訪問看護ステーションとの連携により医療連携加算の体制を整える予定である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や担当者・ご家族との連携を密にし、施設での受け入れ状況等を説明しできるだけ早い段階での退院に向けたアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行っている。必要に応じて本人やご家族の要望を確認し様々な相談にいつでも答えられるようにしている。他の事業所や医療機関とも普段から連携をして終末期に備えていけるように努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。職員の研修については今後の努力課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や定期点検を行っている。避難訓練の際には合わせて、通報・消火等の訓練も行っている。今後は地震や津波を想定した訓練も実施していきたい		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中でトイレの扉の開け閉めなど様々な場面でのプライバシーの確保に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に考えや思い・感情を伝えられるように一人ひとりのペースに沿って接している。外食等は意見や希望をできるだけ聞き入れられるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットごとでの基本的な一日の流れはあるが、毎日の生活が自分のペースで行えるように援助している。買い物・受診・お手伝い等の希望されることが、職員と一緒に楽しめるように個別対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧などを自分でされている方もおられる。衣服も自分で選んでいただいている。散髪も月一回事業所に来ていただいで実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や内容などできる範囲内で好みに合ったものを提供している。調理等も可能な方に手伝ってもらっている。食材は新鮮な物・旬の物を地域の業者さんから仕入れている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は細かくチェックし毎日記録している。メニューは食事担当の職員がその都度考えて、バランスの良い食事作りに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがい・歯磨きを実施している。歯ブラシが使いにくい方にはスポンジブラシにて対応している。義歯は毎晩取り外して清潔を保つとともに週2回のポリドントを行っている		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて、一人ひとりの排泄のパターンや状況を確認している。必要に応じて声かけ・誘導をしている。状況に応じて、パットや紙パンツ等を使用しているが、適時検討し変更等を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトやバナナなどを取り入れたり、水分量や運動量を増やしたりしている。また、必要に応じて下剤等も使用し、便秘の解消に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェック後に本人の意思を確認し入浴している。仲の良い方同士で入浴をすることもある。便失禁等があれば必要に応じてシャワー浴を行っている。シャワーチェア等の福祉用具を活用して安全な入浴環境の整備に努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて午睡を取り入れたりしている。居室やたたみで随時休んでいただける環境整備も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は個人別に分けた袋の中から夜勤者が翌日分を用意し、特定の出勤帯の職員が配布するようにしている。誤薬を防止するため、名前・日付・内服の確認を行っている。処方の変更は協力医と随時連携を取り行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみなどの役割(お手伝い)をケアプランに位置付けて、一緒に取り組めるように努めている。また、趣味や楽しみごとを見出しできる限り実践できるよう援助に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気に応じてテラスでの日光浴や散歩など日常的に取り組んでいる。外出等も計画し四季の変化を感じられるように努めている。ご家族にも声かけし外出を促している		

グループホーム愛の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、安心や満足の為に手元に少額を持たれている方もいる。その中から買い物などに使用している。また、立替金での買い物ができるように契約時に家族に説明し同意を得ている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は希望に応じて本人に渡し、ゆっくりと会話を楽しませている。希望があれば、ご家族の了解を得て事業所から電話をすることもあがる。今後、年賀状等が出せるように支援していきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画作りを行い、フロアの壁面に飾ってある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前にソファを設置している。テーブルの配置は随時変更して変化を出せるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電化製品も含めて持ち込み制限を特にしていない。なじみの物や好みの物を持ち込んでいただけるようにしている。プライバシーの為に入り口に暖簾等を設置している居室もある。ベッドの配置は随時見直している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室はわかりやすいように大きな表示をしてある。居室の位置は本人やご家族の希望・ADL等に沿って決めている		